

第1学年 道徳学習指導案

平成27年10月 9日（金）第5校時

1 主題名 生命のつながり 3－（1）

資料名 「命のタスキ」（出典 彩の国の道徳「自分を見つめて」 埼玉県教育委員会）

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

① ねらいとする道徳的価値についてのとらえ方

- ・生命は、かけがえのない大切なものであり、自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることが必要となってくる。自らの生命は自分一人だけのものではないという繋がり（生命の連続性）、今の自分が存在することの不思議・奇跡（生命の偶然性）、今ある生命をよりいっそう輝かせることの喜び（生命の有限性）を実感することにより、自己以外のかげがえのない生命をも同様に大切にするものと思われる。

② 発達の特性

- ・中学生の時期は、毎日比較的健康に過ごせ、忙しい生活の中にあるため、自己の生命に対するありがたみや、人間の生命の有限さについて考えさせられる経験も少ない。ましてや反抗期に入るため、自分が一人で大きくなったかのような言動をしたり、友達との繋がりを優先させる時期であり、親の子を思う愛情が誕生以前から深いことを知る機会は稀である。

③ 指導の要点

- ・自分が今ここにいること不思議、生命にいつか終わりがあること、生命はずっと繋がっていることを深く考えさせることによって、自他の生命を尊重する態度を身に付けさせ、生かされていることへの感謝や、一人だけの命ではなく、過去から未来へとつながる命なのだとして自覚させることが大切となる。

④ ①～③を踏まえた教師の願い、指導の意図

- ・本資料を通して、自分がこの世に誕生したことの喜びとその価値に気付かせたい。
- ・今ある生命は自分一人のものではなく、ずっと受け継がれ、次の走者に「命のタスキ」を託さなければならないという使命をもっていることを深く自覚させる。
- ・限りある生命が誕生し、尽きるまで、すべての生命はかけがえのない大切な一瞬一瞬を走り抜いているということを理解し、他の生命を尊重する態度を身に付けさせたい。

（2）生徒の実態について

本学級の生徒は、穏やかで仲間同士のトラブルも比較的少ない。それには、家庭でのしつけが行き届いていることが大きく影響していると思われる。また、反抗期を迎えていないことにも因るが、三者面談を通して、母子関係がよいと思われる家庭が多かった。しかし、親子共に中学校生活に慣れることで精一杯で、日々の生活において生命の誕生について語り合う余裕もないのが現状である。

道徳の授業では、挙手・発言に意欲的な生徒が5、6名いるが、その他の生徒は、挙手や発言に対して消極的である。しかし、授業後の感想を読むとよく考えている生徒が多い。本資料は、主人公と母、母と祖母の関係のなかで、子の立場、母の立場を考えられ、「生命のつながり」に気付ける資料となっているので、自分の親子関係にも重ね合わせて、ねらいに迫っていきたい。

（3）資料について

本資料は、母親が自分を思う愛情をわずらわしく思い、反抗的な言葉を投げかけてしまう主人公が、学校での生命誕生の学習に触れ、純粋に感動を覚え、母親に心を開いて自分の誕生の様子を聞くに至るが、母親自身の生い立ちの話にも及び、生命の誕生の真実と奇跡を身近なものとして受け止めるという内容である。主人公が「生命の誕生」の学習を通して、生命の重さや生命誕生の価値に気付いていくように、目の前の生徒にも事前学習を行い、

主人公の思いが実感できるよう配慮したい。また、自分が誕生するまでに、母親がどれほど我が子の命を大切に守り、胎内で育ててきたかを理解させ、生を受けた喜びと奇跡に感謝の念を抱いていけるようにしたい。ねらいとする道徳的価値に迫るため、以下の場面を柱において話し合いを進めていきたい。

- ・母親に反抗する場面で、親の心配をわずらわしく思う主人公に共感させたい。
- ・生命誕生の学習の場面で、誕生の感動と命の重さに気づく主人公の気持ちに寄り添わせたい。
- ・母が「自分の生い立ちを恨んでいない」と言った場面で、母親の立場になることによって、祖母の気持ちや生命のつながりに気付かせたい。
- ・母親の「命のタスキ」の話を書く場面で、「生命のつながり」というねらいに迫りたい。

3 本時のねらい

かけがえのない生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。

4 事前・事後指導との関連

事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会……「私たちの道徳」のP98を読む。生命の三つの側面である「偶然性」「有限性」「連続性」について、今自分が最も関心があるものはどれか、理由を含めて、アンケート用紙に記入する。 ・学級活動……保健学習用の「生命の誕生」のビデオを視聴し、乳児の人形を抱いてみる。また、出産時の産声をカセットテープで聴いてみる。「私たちの道徳」のP103の生命の誕生についての詩を読む。本時の感想を書く。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会……「私たちの道徳」のP99～P101を読み、学習後のまとめを記入する。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 先日行った「生命を考える」についてのアンケート結果、ビデオ視聴と詩の感想について発表、紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間がどの項目に関心が多かったか、関心をもって聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への興味・関心をもたせる。 ・意見を発表しやすい雰囲気をつくるよう、生徒の反応に言葉を添える。
展開	2 資料の登場人物、条件、状況を確認する。 3 資料の範読を聞く。 4 主人公智子の心の変容について話し合う。 (1)「好きであなたの娘に生まれてきたわけじゃない」と言っ智子はどのような気持ちだったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の内容を理解し、条件状況を把握する。 ・心に残ったこと、話し合いたいところに各自ラインを引く。 ・いちいちうるさいな。お母さんには関係ない。自由にさせて。放っておいてよ。 ・友達のことまで悪く言うなんて、許さない。 ・カッとなって思わず言ってしまった。 ・心がないことを言ってしまった。母に見放されるのがこわい。 ・大事な娘と思ってくれている母を傷つけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公になったつもりで考えさせる。 ・場面絵や言葉を貼り、場面を押さえる。 ・ロウるさい親に思わず反抗する主人公に共感させるとともに、気まずい関係になった主人公の後悔の念にも触れさせる。 ・自分一人でここまで大きくなった。自分の命は自分だけのもの。簡単に生まれてきたような言い方をして

	<p>[補]「一生懸命赤ちゃんを産もうとしている母親の姿を見るのは辛かった」のはなぜだろう。</p> <p>(2) 命の重さと同じ重さの人形を抱いて、主人公の両腕がものすごく緊張したのはなぜだろうか。</p> <p>(3) お母さんはなぜ、「自分の生い立ちを今は恨んでいない。」と、(自分の子供がおなかにいると分かったとき) 許せたのだろうか。</p> <p>(4) 「あなたの命はあなただけのものではないの。命のタスキをつなげてほしい。」と聞きながら、涙があふれてきた智子の気持ちはどんなだったろう。</p>	<p>てしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命がけで我が子を産もうとする姿に驚いた。 ・こんなに大変な思いをして産むものなのだ。 ・私のお母さんも、このように命がけで私を産んでくれたのだ。 ・そんな母に、ひどいことを言ってしまった。 ・お母さんが「大事な娘」という意味が分かった気がする。 <ul style="list-style-type: none"> ・母親が命がけで産んだ大切な命だから。 ・小さな命を落としてはいけないと大切に思う気持ちが芽生えたから。 ・小さな命だが、ずっしりとした重みを感じたから。 ・お母さんも初めて抱いたとき、緊張したのだと実感できたから。 <ul style="list-style-type: none"> ・たった十か月だけど、大事におなかの中で育ててくれて、命をかけて産んでくれたことだけでも、どんなにありがたいことか。 ・自分も母と同じ立場になって、初めて母の気持ちが伝わった。産むまでの十か月の苦しみと努力が分かった。 ・母が自分を産んでくれたからこそ、自分も今、おなかの子を宿せ、産めるのだ。 ・自分がここにいるのは母のおかげ。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分がお母さんの宝物だと分かったから。 ・母にひどいことを言ってしまったことを後悔したから。 ・母の苦勞を知り、自分が産まれたことの奇跡に感動したから。 ・つながっている命のタスキを大切にしようと思えたから。 	<p>いることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなた方も命がけで産んでもらい、生まれてきたのです。」という助産師の言葉を板書する。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で、保育学習教材の乳児の人形を抱いたことを思い出させ、主人公の思いに重ねさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・視点が主人公から母親に移行するが、「命のタスキの受け渡しの部分なので、丁寧に考えさせたい。 ・産んで間もない子と(何らかの事情で) すぐ離れることになった母親もさぞ辛かっただろうと教師から補足したい。 ☆母親の立場になって、その母や子を思う気持ちに寄り添えたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分一人の命ではなく、たさんの命のおかげで今の自分の命が活かされていることを、生徒一人一人が自分のこととできるようにしたい。 ☆命の繋がりを通して、自他の生命を尊重することの大切さに気付いたか。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

終末	4 授業をとおして学んだことやこれからの生活に生かしたいことを、道徳ノートに記入し、発表する。	・各自道徳ノートに記入し、発表する。 (自分も自分の命を守ってつなげていきたい。産んで育ててくれることに感謝したい。)	☆自分を見つめ、自他の生命について考えることができたか。
----	-------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	------------------------------

6 評価の観点

○生徒の評価

- ・生命の連続性を理解し、自他の生命を尊重しようとする考えを深めることができたか。
- ・主人公と母親の二つの視点で、生徒自身が自分の「命のタスキ」を考えることができたか。
- ・他の人の意見や考えを聞いて、自分の考えをより深めながら、話合いに参加できたか。

○教師の評価

- ・資料の提示や発問により、生徒の考えを引き出すことができたか。
- ・生徒の発表を生かして、話合いを進めることができたか。
- ・ねらいとする価値観や態度に迫ることができたか。

《話題につなげたい場面》

《キーワード》

《考えさせたい心の内》

智子は、この前、門限をちょっと遅れて母親にもものすごく叱られたが、思わず反抗的なことを言ってしまった。

・「好きであなたの娘に生まれてきたわけじゃないのよ。」

口うるさい親に思わず反抗してしまった智子の心の内。

学校の生命誕生の学習のとき、助産師さんが渡した人形を抱いて、智子の両腕はものすごく緊張していた。

・「あなた方も命がけて産んでもらい、生まれてきたのです。」
・「これが『命の重さ』よ。」

母親が命がけて子どもを生む様子を見たとき、その小さな命と同じ重さの人形を抱いたときの智子の心の内。

母親が、自分の生い立ちを「今は恨んでいない。許そうと思った。」と言った。

・「恨んでいないのはあなたのおかげ。あなたが私のおなかにいると分かったとき、許そうと思ったの。」

祖母が母を産んでくれたおかげで、母が私という大切な宝物を授かることができたとき聞いたときの智子の心の内。

母親の「命のタスキ」の話聞きながら、智子は涙があふれてきた。

・「あなたの命はあなただけのものではないの。これから先、あなたの命は受け継がれていく。この『命のタスキ』をつなげてほしい。」

自分の命は自分だけのものではなく、沢山の「命のタスキ」でつながっていると聞いたときの智子の心の内。

○ **主人公** 私 (智子) ○ **母親** ↓ 両親と思っていた二人は

○ **友人** 美加 実は祖父母であった

《 学校帰り、門限に遅れ、母に叱られた。 》

○ **好き** であなたの娘に生まれてきたわけじゃない。

・ 自由にさせて。うるさい。

・ 友達のことまで言うなんて、許せない。

・ カーツときて思わず言ってしまった。气まずい。

《 生命の誕生の学習 》

○ **赤ちゃん** を産む母親を見るつらさと涙

・ 命がけの出産に驚き、感動した。自分の母も同じだった。

・ そんな母に大変なことを言ってしまった。

あなた方も命がけて産んでもらい、生まれてきたのです。

○ **赤ちゃん** と同じ重さの人形を抱いて緊張

・ 小さくとも、命がけて産まれた大切な命と感じたから。

・ 命を大切にする気持ちが芽生えたから。

○ **自分の生い立ち** を今は恨んでいない母

《 両親のことを知ったとき、ショック。 》

・ 自分が妊娠 ↓ 母がたった十か月だけ、大事におなかの中で育ててくれて、命をかけて産んでくれたおかげで、今の自分がある。 ↓ 大切な宝物を授かることができた。 ↓ 感謝

・ 同じく母親になって、母の大変さや有り難さが分かった。

○ **命のタスキ** をつなげてほしい。

・ 自分が母の宝物という意味が分かった。

・ 母にひどいことを言ってしまった。